

卒業生からのメッセージ

ITソリューションを提供し
安心・安全な社会づくりに貢献する。



富士通株式会社
ソーシャルシステム事業本部 社会ネットワークソリューション事業部

北村 直也 さん (経済学部 2023年卒業)

現在は営業担当として、国土交通省様向けにサーバやネットワーク、映像機器のほか、ICTやAIを用いたソリューションを提供し、安心・安全な暮らし、災害に強いレジリエンスな社会づくりに貢献しています。大学時代思い出深いのは、アクティブラーニング主体の授業です。実践的な学びを通じて、何事にも積極的に取り組む姿勢が身につきました。また卒業論文では、「音楽聴取が長時間作業に及ぼす心理的影響」について研究しました。3人のチームで時には夜遅くまで議論し、試行錯誤しながら困難を乗り越え、卒業論文を書きあげるという貴重な経験を積むことができました。こうした経験から、自分の頭で考え、行動する大切さを学んだことは、仕事をすることも良い教訓となっています。将来の目標は、お客様に提案やコンサルティングを行う、ソリューション営業ができる担当になることです。

2019年、経済学部に入學。行動経済学関連のゼミナールに所属し、音楽聴取の心理的影響について研究。ゼミナール大会で入賞する。またダンスサークル「R.D.C.」に所属し、京都大会3位、関西大会出場を果たす。ITで、より便利で暮らしやすい世の中にしたと思い、2023年、富士通株式会社に入社。仙台を拠点に営業活動に従事する。

共創を軸にした未来社会を目指して
スポーツで地域振興を図りたい。



西日本電信電話株式会社
(NTT西日本ビジネスフロント株式会社 関西営業推進担当 DXコンサルグループに outward)

永吉 由芽 さん (経済学部 2022年卒業)

「共創を軸にした未来社会の創造」を志し、その実現のための基盤が西日本電信電話株式会社にあると思い入社を決めました。現在は、関西エリアの中堅・中小企業のDX推進に取り組む一方、社内ダブルワーク制度を活用して、自治体の共創ビジネスを推進する仕事にも携わっています。大学では、国際交流イベントを企画運営する団体のリーダーとして活動していました。学生センターとの交渉で助成金を受け、大学内の枠を越えた大きな国際交流の機会を提供しました。この経験は、仕事で主体的に周りを巻き込む力として、また、ゼミナールでの論文執筆を通して身につけた「問いを立てる力」「洞察力」「批判的思考力」は、課題解決のスキルとして活かされています。スポーツを起点に地域の振興を図るのが将来の目標です。スポーツが与えてくれる感動を一過性のものとせず、持続的な地域振興につなげたいと考えています。

2018年、経済学部入學。2022年に卒業し、西日本電信電話株式会社に入社。同年、NTTビジネスソリューションズ株式会社 福岡ビジネス営業部に outward。2024年、NTT西日本ビジネスフロント株式会社 関西営業推進担当 DXコンサルグループに outwardし、主に関西エリアの中堅・中小企業のDX推進に取り組む。



経済学部の入口をのぞいてみよう

「経済学ってなんか難しそう」「経済学部で学びたいな!」に変えることができるきっかけとなる、模擬講義動画を掲載しています。このパンフレットを読んでいただき、少しでも経済学に興味を持った方は、経済学の入口に一步踏み出してみませんか?

www.ritsumei.ac.jp/ec/lecture/



入試情報

入試の最新情報は「立命館大学 入試情報サイト」をチェック

ritsnet.ritsumei.jp/



経済学部ホームページ

ホームページを一新しました

www.ritsumei.ac.jp/ec/

立命館大学 経済学部



高校に入試説明会や模擬授業に行くたびに感じてしまう「違和感」があります。

それは、多くの高校生のみなさんが、経済って自分たちとは関係ない別世界のことだと思っている「ふし」があることです。多分、為替とか貿易とか株価とか景気とか、そういうのが経済って思っているのではないのでしょうか？ だから経済って、ニュースとかに出てくる話で、自分たちには関係ない、と思ってしまうのではないのでしょうか？

実は、それは単なる思い込みなのです。確かに、為替、貿易、株価、景気というのは経済に関連することです。でもそれだけではないのです。みなさんが小さいころから過ごしてきた生活の中に、経済は息づいているのです。

たとえば、みなさんは小学生ぐらいから、月*円という形で、おこづかいをもらっているのではないのでしょうか？ もらった

金額の中で、食べ物や飲み物や文房具やコスメなんかを買っているのでは？ そのときに、自分にとって要らないものや、好きでないものを買ったりしないですよね？ とてもおこづかいではまかなえないような、高額なモノも買ったりしないはず。逆に、お小遣いの範囲内で手に入るモノの中で、欲しいモノを買っているのではないですか？

何を当たり前のことを書いてんの、と思っているかもしれません。しかし、**このようなおこづかいのやりくりすることこそ、立派な経済活動なのです。**経済は英語でEconomyといいますが、そもそも語源は「家計をやりくりすること」です。

だから、みなさんは小学生のころから、経済活動に「従事」しているのです。会社のさまざまな活動も、国の色々な活動も、結局は、おこづかいをやりくりすることと変わりません。会社では、手持ちの資金

の範囲内で、どんな商品をどれだけ作るかを考え、そのためにどれだけ人を雇って、どんな規模の工場を建てるかを考えます。国だって税金で集めた予算の範囲内で、どんなことにどれだけお金を使うかを決めています。そういう意味では、おこづかいの使い方を考えるみなさんと同じですよ、会社も国も。

さて、みなさんのおこづかいの話に戻りますね。みなさんはおこづかいの前借りという経験はありませんか？

どうしても欲しいものがあるけど、手持ちのお金では少し足りない、そこで来月分のおこづかいを前借りするって経験はありませんか？ 今月使えるお金が増える分、来月使えるお金は少なくなりますよね。こういう時って立て替えてもらうことが多いので、ちゃんと「*円前借りました。」ってメモを残すように親御さんに言われたことはありませんか？

これと同じことを国も行っているのを知っていますか？ 国は、今の国民のために使うお金を確保するため、将来の国民からお金を前借りしているのです。メモに当たる借入証を債券といいます。このような債券は国が発行しているので国債と呼ばれます。

みなさんはお年玉を親御さんや祖父母や親せきの人からもらっていると思います。そして、もらったお年玉を貯金しておくという人も多いと思います。貯金するってことは、今、手持ちのお金があるのにあえて使わないってことです。人によっては、親御さんが管理されている場合もあるでしょうね。

じゃあ貯金したお年玉はいつ使うのか、それは、推しのアイドルのコンサートチケットが当たったり、友達とテーマパークに行くことになったときではないでしょうか？ つまり、今、手持ちのお金を使って何かを買わずに、将来、使う機会あるときに

使うわけです。おこづかいの前借りの逆パターンです。

これと同じことを国が行っています。おじいさんやおばあさんに聞いてみてください。「年金ってもらってる？」って。

おじいさんやおばあさんは、若いときに稼いだお金の一部を国に預けて、その時に使わずに、将来（老後）に使うためにとっておいています。これが年金です。お年玉を貯めて、いざという時に使うのと基本的には同じなのです。

このように、小学生のころからみなさんが経験していることと、企業や国が行っている経済活動って、根っここの部分は同じなのです。みなさんが、おこづかいを使ってモノを買ったり、前借りしたり、お年玉を貯金することと、政治経済の教科書の内容とが結びついていなかっただけなのです。

ただし、お金が絡んでいる経験だけが

経済ってわけではありません。**経済活動って結局は意思決定なのです。**なので、経済学は主に経済活動に関する意思決定の結果を研究する学問といっても間違いはありません。

グループワークや掃除当番などのチーム活動で、さぼるクラスメートをどのように対応したらよいのか？、クラスの委員長や生徒会長をどのような形で選出するのがよいのか？

といったものも、経済学と関係していて、研究がなされているのです。

どうでしょうか？ 自分たちの身近な経験が、経済活動そのものだということ、少なくとも経済活動と関連しているという事に納得してもらえたでしょうか？ 納得してくれて、もしほんのちょっとでも面白そうだった人は、ぜひ、人々の意思決定を分析する経済学部を、進路の一つの選択肢にしてくれば幸いです。



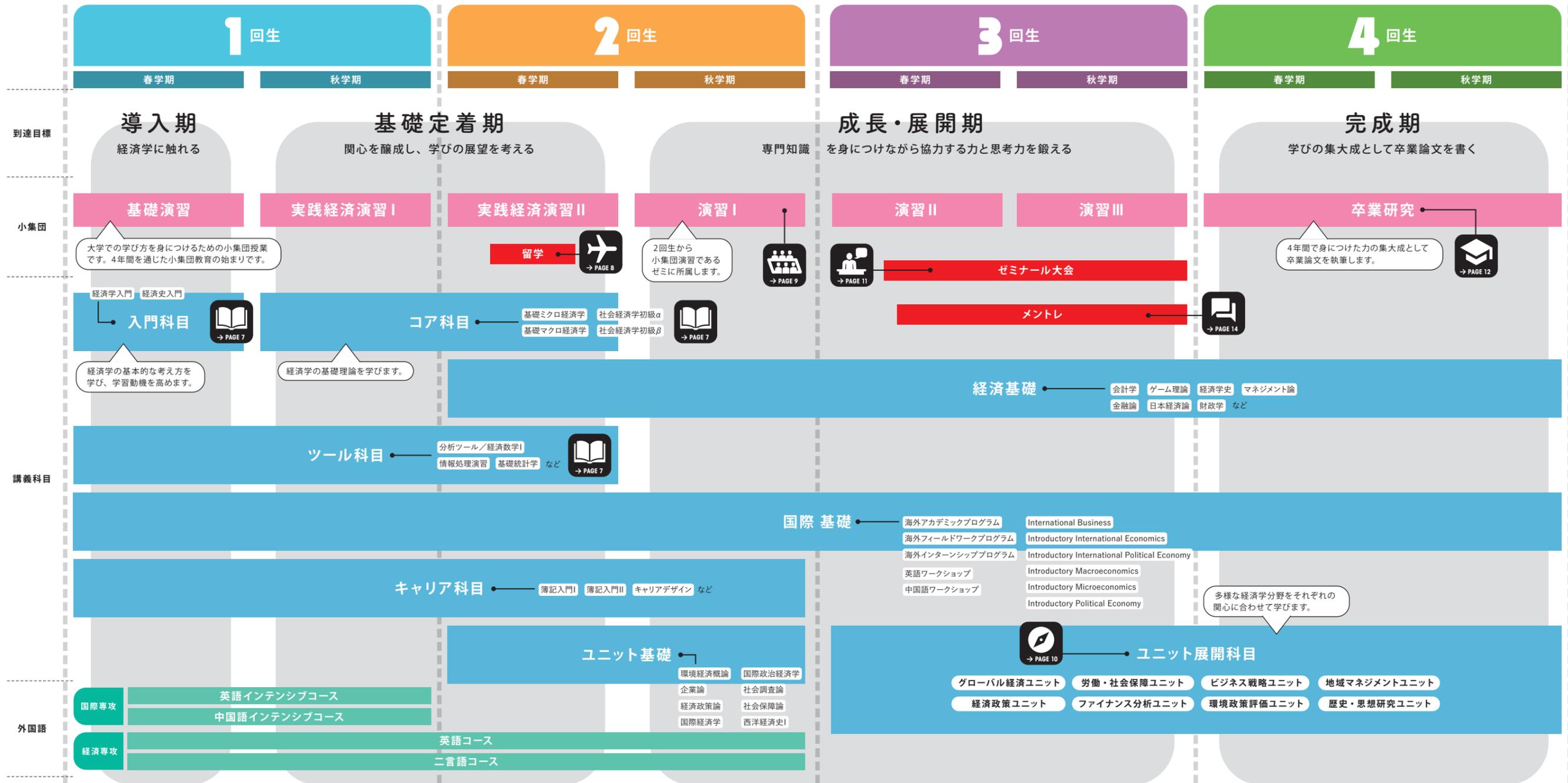
WHY ECONOMICS?
 経済学部教員が、受験生のみなさんにとって身近なさまざまな謎「？」を
 経済学で読み解くエッセイを掲載していますので、ぜひご覧ください。



経済って、みなさんにとっても**身近なコト**なのです。

経済学部 の 4 年間

「多様性理解力」と「経済センス」を磨き、
国際社会で活躍できる力を培う。



大学生生活の基礎を作る

大学生生活にスムーズに移行できるよう、経済学部での学び方や経済学の基本的な考え方、外国語を集中的に学びます。小集団での授業を通し、大学生として主体的に学ぶ姿勢を身につけます。



国際専攻

Major in Global Studies

外国語 + 経済学教育 + 海外経験 で、

世界で通用する
国際人を育成する。

国際化した経済・社会に対する洞察力・分析力を養うべく、独自の外国語プログラムを展開し、海外留学や海外フィールドワークの機会を提供します。外国語教育では英語もしくは中国語を選択し、入学直後から現地で使える外国語を集中的に学ぶことができます。

外国語コース

英語インテンシブコース	英語
中国語インテンシブコース	中国語 + 英語

VOICE

経済学的な思考力、情報処理知識、語学力は必須

1回生で受講する科目のうち、「基礎ミクロ経済学」は経済学的な思考を身につけ、グラフや数式による分析に慣れるためにも重要な科目です。2・3回生になって、ゼミで分析を行ったり、国際貿易論で大国モデルを理解するのに大いに役立ったことに加え、その学びが2回生での「基礎マクロ経済学」の理解につながりました。さらに「基礎マクロ経済学」の学びは、その後の貿易や国際経済への理解を深めることにつながりました。

経済分析のベースとして情報処理関係の知識も欠かせません。「情報処理演習」では、実際にパソコンを操作しながらWordやExcelなどの使い方からデータ処理技術までを学んでいくので、基礎知識とスキルがしっかり身に付きました。また、レポートや論文を書くときに必要な基礎知識、レポートの書き方や引用の仕方、参考文献の書き方などを学ぶ「基礎演習」も重要な授業です。

さまざまな社会問題について英語でディスカッションを行う「Thematic Development」の授業や、毎回提示されるテーマに対して理論的な回答を求められる「留学対策英語」は、英語によるコミュニケーション能力を向上させるのももちろん、社会に対する洞察力や批判力、発言力を養成するうえでも有益です。私の場合、これらの授業で論理的な思考力や積極性が養われ、ゼミでも活発な発言や問題提起を行えるようになりました。



渡邊 光彩 さん
経済学部3回生
滋賀県立彦根高等学校出身

経済専攻

Major in Economic Studies

理論 + 現実 + 実践 で、

現代社会の諸問題を
解決する人材を育成する。

社会生活の基盤となっている経済活動のメカニズムや市場の法則を解き明かし、より豊かな社会を創造していくために必要な考え方や手法の基礎を学びます。経済学を中心に法律や経営など他の社会科学や教養までを段階的かつ総合的に学ぶことができます。外国語学習では、英語コースもしくは二言語コースを選択し、外国語運用能力を高めます。

外国語コース

英語コース	英語
二言語コース	英語 + 初修外国語*

*中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、朝鮮語から選択

VOICE

専門科目を学ぶうえで経済数学は必須

専門科目を学ぶうえで「経済数学」は重要です。文系なのになぜ数学と思われるかもしれませんが、選択必修科目である「基礎ミクロ経済学」「社会経済学初級α」、その後の専門科目などでは、微積分をはじめとする数学知識が必要になってくるからです。現在、ゼミで経済効果の分析を行う際には、収集したデータをExcelを使って処理しています。「情報処理演習」でExcelの使い方を学んだこと、「実践経済演習I」でデータ分析のやり方を学んだことが役に立っており、1回生でこれらの知識・スキルをしっかり身につけておいてよかったと実感しています。

外国語により多く触れる機会を持つことも大切です。私は、英語のほかに中国語を履修しました。大学での英語の授業は高校までとは違い、コミュニケーションに重点を置いたものでしたので、必然的に学生同士での交流の機会が増え、たくさんの人とつながることができました。英語で経済学を学べる授業もあり、外国語の授業には語学力の習得以外にも多くのメリットがあります。私の場合、中国語を履修することが初めてで、新鮮な感覚で楽しく学ぶことができ、語学全般への興味も増えました。

現在の目標は、大学在学中にTOEICやTOEFLなどで高得点を取得すること。自分のやりたいことをやり尽くして、後悔のない大学生活を送りたいと、勉学に、就活に、全力で取り組んでいます。



柳川 喜也 さん
経済学部3回生
茨城県立水戸第一高等学校出身

基礎演習

経済学部では、一日でも早く大学での学習に慣れてもらうために、基礎演習という少人数クラスを用意しています。このクラスでは、レポートや論文作成に必要なスキル、たとえば、図書館の使い方やアカデミックライティングを、共通教科書を用いつつ学ぶ機会が提供されています。加えて、各クラスには、オリター*と呼ばれる上回生がサポーターとして大学生活全般を支援しています。



実践経済演習I

上記の「基礎演習」で培った成果を、2回生「実践経済演習II」や「演習I」(ゼミ)、3回生のユニットにおける系統履修につなげていく橋渡しとしての科目になります。具体的には、「アカデミックライティング」《統計分析》《英語・中国語ワークショップ》《PBL (Project Based Learning)》《文献輪読》《プレゼンテーション》《キャリア教育》など、授業メニューごとのクラスに分かれて履修を行います。



経済学入門

1回生になってまず受講するのが、経済学の基本的な考え方を学ぶ「経済学入門」です。この講義は、経済学の基本的な考え方を学ぶことを通じて、経済学の学問的発展に尽くした先人たちの偉業を知るとともに、現実の経済活動に興味を持てるようになることを目指すものです。



基礎ミクロ経済学・ 社会経済学初級α

経済学部生として、最低限身に付けなければならない経済学の基礎理論を系統的に学ぶ科目です。経済学部では、「コア科目」と呼ばれる授業であり、2回生からは「基礎マクロ経済学」「社会経済学初級β」の履修を行うことができます。



情報処理演習

情報処理演習は大学での学習を円滑に行うために必要となる情報処理関係の基礎知識を体系的に学び、経済統計分析の基礎知識を身につけるための授業です。実際にパソコンを操作する実習形式の授業で、パソコンの基本的な使い方やデータ処理技術を習得します。



基礎統計学

統計資料の利用は、私達が現実の経済社会を把握する上で、重要な手段です。それぞれの統計資料は固有の特徴をもっています。実際に接する統計資料によって何が得られるかを理解するためには、与えられた統計を眺めるだけでなく、統計の利用の重要性と限界を認識することが必要になります。本科目は、そういった新聞・雑誌・書籍等で用いられる統計資料の読み方と利用方法の基礎を学ぶことを目的とした授業です。



オリター制度とは？

立命館大学は、学生相互の支援「ピア・サポート」が盛んな大学です。中でも、オリター制度は、学習や学生生活の面から、先輩である上回生が新入生に支援を行う制度です。全国、そして世界から学生が集まる大学だからこそ、互いに学び合うことのできる立命館大学の伝統として根付いています。新入生の仲間作りのサポートを始め、学習や学生生活全般に関する相談に乗ってくれるので、スムーズに大学生活をスタートすることができます。



2

1年生の学び

海外へ視野を広げよう

1年生で身につけた語学力を活かし、海外に視野を広げ、経験を積んでもらう時期です。経済学部では多様性を理解する力や国際感覚を身につけるための機会を多く用意しています。



経済学部生のための独自留学プログラム

海外アカデミックプログラム

海外の大学などで外国語を集中的に学ぶとともに、現地経済事情について、外国語で学ぶことができます。プログラムへの参加を通じて国際分野で通用するコミュニケーション能力や専門性を身につけます。

派遣先国	派遣先機関
オーストラリア	ホーン・メルボルン英語学校
ニュージーランド	マッセイ大学
アメリカ	ポートランド州立大学
中国	大連外国語大学
中国	東北財経大学

*派遣先はすべて2025年度の予定です。

海外フィールドワークプログラム

経済学部で学んだ知識を活用し、海外で調査・研究・発表に取り組みます。現地の人々と触れ合いながら、プログラムごとに設定されるテーマ（地域格差是正やツーリズム、環境と開発など）に関するフィールドワークに取り組みます。

派遣先国	派遣先機関
英国	JETRO（日本貿易振興機構）、JBIC（国際協力銀行） ほか
中国	上海対外経貿大学 ほか
ラオス	ラオス国立大学 ほか

海外インターンシッププログラム

日本企業・団体の海外オフィスや現地企業で実施するインターンシップです。多様な背景を持つ社員との就業体験や交流、世界の最前線のビジネス経験により、海外で働くことについて体験的に考えることができます。

派遣先国	派遣先機関
アラブ首長国連邦	日系・現地石油開発会社

VOICE

自ら考え行動する力が身につきました

今回のプログラムは二週間のプログラムで、午前中は語学学校での学習、午後は日系企業及び官庁への訪問でした。現地の日系企業や官庁への訪問はとても有意義な経験でした。CEOや重役をはじめ社員の方々と親しく交流し、外国で働くということはどのようなものなのか、どのような苦労があるのか、どのようなやりがいがあるのかなどを詳しく伺うことによって、海外での仕事の魅力を知ることができ、将来の可能性、選択肢の幅が広がりました。英国フランスキングス英語学校での滞在も有意義なものでした。在籍している学生全員が積極的に発言をしていることに刺激を受けました。ミスを恐れず堂々と意見を述べる皆の姿勢に、自分の考えをはっきりと口に出して伝えることの大切さを学びました。

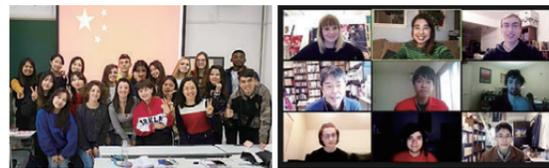
本プログラムに参加して、これまであまり認識していなかった自国文化を再認識できる良い機会となりました。留学で交流した人々を通して、多様な価値観や考え方に触れることができ、主体的な行動力、チャレンジ精神は、就職活動にとどまらず、社会人になってからも役に立つと確信しています。



鈴木 涼太 さん
経済学部3年生
大阪府立茨木高等学校出身

G-ALPs イベント

G-ALPs (P.15 参照) の一環として、留学生との国際交流、様々な国際キャリアで活躍する方の講演などのイベントを多数開催しています。



【過去の企画実績】

- 国際協力の仕事「働く」「学ぶ」
- 海外勤務と国際機関への道：大学生活をどう過ごすか
- 気候変動に適応できるか
～カーボンニュートラルに向けた滋賀県の挑戦
- グローバル系コンサルファームの仕事
- グローバルキャリアについて考察しよう
- 世界からみた日本のヒューマンライツ：メディア・女性・入管・貧困
- 中国からの留学生との交流：多文化理解とコミュニケーション
- 留学体験報告会

ゼミで経済学を探検する



ゼミ活動を通して、自ら課題を発見し、主体的に問題解決に取り組む力を磨きます。

ゼミ紹介 #01 | 高野ゼミ

社会保障と労働の未来を考える

「労働」には、企業で雇われて働くだけでなく、フリーランスのような雇われない働き方や、家庭内で家事や育児に従事する場合があります。あるいは、地域社会でボランティア活動をする場合も含まれています。つまり、「労働」とは、私たちが生活する上で必要不可欠な生産的活動であり、経済社会の基礎・土台部分となっています。

また、「社会保障」は、「労働」の対価としての報酬・所得の格差を緩和する役割や、病気で働けない時に貧困に陥るのを防ぐ役割があります。あるいは、高齢や障害で働けない人への生活保障といった役割もあります。すなわち、「社会保障」は「労働」と密接な関係があり、私たちが生活する上で必要不可欠な制度・政策となっています。

ゼミでは、「労働」を通じて、経済社会



の構造や会社組織の仕組みについて理解できるようになること、「社会保障」について歴史的な視点を踏まえながら、その仕組みや基本的な考え方などについて理解できるようになることを目標としています。その上で、私たちにとって望ましい「社会保障」と「労働」の未来について考えることを課題としています。



高野 剛 教授から
受験生のみなさんへ

「なぜ世の中にお金持ちと貧困な人がいるのか」「どうすれば全ての人が幸せな生活をする事ができるのか」と感じたことのある人は多いのではないのでしょうか。「貧困と普通の生活の境目はどこからどこまでなのか」「お金持ちや貧困な人は何人くらいいるのか」「そもそも貧困とはどういう状態なのか」について、貧困が発生しない経済システムを大学と一緒に考えてみませんか。

ゼミ紹介 #02 | 川岸ゼミ

経済分析の面白さに触れよう



川岸 岳人 准教授から受験生のみなさんへ

日頃からいろいろなことにアンテナを張り、気づきを大切にしたいと思います。そうした気づきの蓄積は物事に対する新たな視点や考え方を生み出し、大学での学びにも大いに役立ってくれるでしょう。

皆さんは経済分析と聞いてどのようなものをイメージするでしょうか。実際のところ、経済分析にはデータを駆使するものや、数学的にアプローチをするものなど様々な手法があります。そして、そうした手法を習得することにより、例えば次のような事柄を分析できるようになります。①あるプロ野球チームやリーグのクラブが優勝した場合の経済効果はどれくらいか？②テーマパークの新エリアの誕生や周年イベントは来客数や収益にどの程度影響するか？③日本の出生率に影響を与えている要因は何か、少子化を食い止める策はあるか？これら

はあくまでも例にはなりませんが、実際に分析できたら面白いと感じるものはあるでしょうか。本ゼミでは上記の①～③のような事柄を皆さん自身の力で分析できるよう、経済効果分析をはじめ様々な経済分析の手法を身につけていきます。実際にはわかりやすい例を重視し、実例を交えながら無理のないペースで習得を目指していきます。そして最終的には皆さん自身で自由に研究テーマを設定し、習得した分析手法を用いてやりたい研究をとことん行ってもらいます。こうした一連の流れを通じて経済分析の面白さに触れてもらう、これが本ゼミの大きな特徴です。

プロフェッショナルを目指す

多様な経済学分野を自らの関心に合わせて、深く学び、専門知識や論理的思考力を身につけます。



ユニット制 科目をパッケージして関心分野を体系的に学ぶ

関連性を持つ科目をパッケージ化したユニットで学び、自らの学びをデザインします。ゼミナールでの学修・研究と連動させながら学ぶことができます。研究テーマによっては、複数のユニットにまたがる学びが望ましい場合もあります。

歴史・思想研究ユニット

現代から将来を見渡す俯瞰的な視座を身に付けるため、経済史、経済学史を学び、歴史的な事例や経済学論争の考察を通じ、現代経済の諸問題の根源を考察します。

社会思想史	東洋経済史I
西洋経済史II	東洋経済史II



グローバル経済ユニット

国際間の経済関係と各国経済の多様性を理解し、グローバルな視野に立って国際的諸課題を考察し、解決提案できる力を養います。

アメリカ経済論	国際貿易論
国際開発プロジェクト・マネジメント	多国籍企業論



経済政策ユニット

経済政策に関わる理論、制度を学ぶとともに、データ分析や事例研究を通じ日本経済が抱える様々な問題の本質を洞察する力を養い、俯瞰的かつ理論的な視点から政策課題の解決策を提案できる力を養います。

経済成長論	貨幣・信用論
公共経済学	地方財政論



地域マネジメントユニット

市場経済では解決が難しい地域・コミュニティの課題について深く知るとともに、国土形成計画から地域振興まで、総合的視点に立った課題の解決方法を学びます。

観光経済論	都市・地域マネジメント
地域経済学	農業経済論



WHY ECONOMICS?



それぞれのユニットを身近な「なぜ?」とともに紹介

労働・社会保障ユニット

人口減少と少子化・高齢化が日本社会にもたらす影響を踏まえながら、労働政策や医療政策、介護政策、年金政策などの社会政策に関わる諸課題を分析し、その解決手法について考察します。

医療経済論	地域福祉論
企業と雇用システム	労働経済論



環境政策評価ユニット

環境・公害問題の科学的な理解に加え、環境の経済社会的価値や環境政策の効果を評価するための分析手法の修得など、政府の環境・資源政策や企業の環境マネジメントに活用できる文理総合的な学びを行います。

環境経済学	環境法
環境経済評価論	食糧経済論



ファイナンス分析ユニット

資金の調達・運用・投資戦略などの理論を理解するとともに、金融市場の制度や政策に関する知識、企業財務や金融市場を分析する技術など、金融に関わる業務に必要な知識と技術を学びます。

金融市場分析実習	コーポレートファイナンス
行動経済学	リスク管理論



ビジネス戦略ユニット

経済学的視点から企業の意思決定理論を学ぶとともに、マネジメント、会計、法律などの多様な観点から経営戦略、企業組織をめぐる諸課題を分析します。

企業財務論	産業組織論
財務諸表論	組織と制度の経済学



ゼミナール大会 理論を身につけ、実践を通して研究成果を発表する

学生同士の知識の深め合いや研究意識の向上、また学部全体での研究力の向上を目標に、毎年12月に開催される学術イベントです。毎年100チーム以上、約400名を超える学生が参加します。日ごろの調査・研究の成果を論文としてまとめ、その内容についてプレゼンテーションと合わせてコンテスト形式で評価されます。それぞれの発

表の後には質疑応答の時間も設けられ、会場は熱気あふれた雰囲気になります。自らが設定したテーマについて徹底的に研究し、多くの人の前で成果を報告することにより、社会で役立つ問題発見・分析・解決の能力、プレゼンテーション能力を養います。



STEP 1: 分科会 (予選)

100チーム以上が参加し調査・研究成果を競います



STEP 2: 優秀者発表会

選ばれた約10チームがプレゼンテーションを披露します



STEP 3: 表彰式

調査・研究力、プレゼンテーション力に秀でた発表が選ばれます

過去ゼミナール大会テーマ例

社会的スティグマ化と社会保障へのアクセスの分析

観光業から見た地域経済再生と雇用問題

多機能スタジアム新設による経済効果

再生可能エネルギーだけで日本の電力の脱炭素、安定供給が可能か

日本のフェアトレードの現状と課題

バーコード決済会社が行っている施策の実証と提案

第3号被保険者制度廃止による影響の考察

ひとり親家庭の子どものライフコース上の不利

ナッジの有効性

エンカル消費の促進実験

都市農村交流におけるイベントの有用性

草津市本町地区の歴史

ファストフード店における立地分析

黒人を代表する音楽会社モータウンが社会に与えた影響

韓国エンタメ産業の発展

カプセルホテルに関する考察

VOICE

当初の仮説にこだわらず視点を交える柔軟性と粘り強さが身についた



鴨川 侑弥 さん
経済学部4年生
宮城県立仙台山高等学校出身

ゼミナール大会に向けて取り組んだのは「景気予測の正確性」。「予測」という不確実なものへの興味から選んだテーマでした。日本経済新聞に掲載される30業種の景気予測「業界天気図」を指標に、業種ごとの「予測が外れる傾向」を明らかにすることによって、景気予測の正確性が判明し、株価の予測もできるようになるのではないかと考えたのです。

マイナーな分野なので、参考となる先行研究がほとんどなく、自分たちで一から研究計画を立てるところから始めました。「海外進出率の高い業界ほど景気予測が外れやすい」など、業種ごとの特徴を軸に仮説を立てて研究を進めましたが、なかなか思うような結果が得られず、仮説を立て直すことに。チームでの話し合いや教授

からの助言を参考に視点を交え、新たに「景気の良さと悪さ」に着目したことによって「景気の悪い業種ほど予測が外れやすい」「業界天気図が『景気が下がる』と予測をした時に外れやすい」との結果が得られ、当初の計画より内容が濃い研究に仕上げることができました。この経験を通して、参考文献がない中で研究を続ける粘り強さ、一度立てた仮説にこだわらず視点を交える柔軟性が身についたと考えています。

発表に際しては、私たちの研究内容をまったく知らない教授や学生にいかに分かりやすく伝えるかを意識して資料を作成。プレゼンに関してもメンバーが互いに客観的に批評し合うなどして練習し、緊張しつつも、自信を持って発表に臨むことができました。

4

4年生の学び

培った力で未来へ羽ばたく

4年間の学びの集大成として、卒業論文を執筆し、社会に羽ばたく準備を行います。



卒業研究

4年間で身につけた力の集大成

卒業研究では、みなさんの興味関心に沿ったテーマを選定し、卒業論文を作成していきます。洞察力を用いて、より良い問いを立てて、テーマを選定し、俯瞰力を用いて、論文の構成を決定します。そして、分析力を用いて、論文の内容を緻密にし、論理・表現力を用いて、説得力のある文章を執筆します。このように、4つの力の集大成が卒業論文なのです。



経済学部で身につく4つの力

「自ら問いを立てて分析できる」人になってほしい。これが経済学部教員の思いです。そのための機会となるカリキュラムを用意しました。もちろん、カリキュラムの学習だけでなく、大学生活を送る中での様々な体験も、積極的に取り組めば、そのような人になるための一助になるでしょう。このような人になるためには、どのような力をつければよいのでしょうか？それは次に示す四つの力です。

分析力

経済学独自のものの見方や考え方、統計分析のためのスキルを駆使して、緻密に考えることができる力

論理力

分析力に基づいて、物事を客観的にみることができ、加えて理屈で物事を考えることができる力

俯瞰力

論理力が身につくことで、ある事象と別の事象とは、ある着眼点から似ているのではないかという風に、物事を大づかみにとらえることができる力

洞察力

俯瞰力を手に入れることで、物事の本質を見抜くことができる力、ひいては、今後どのようになるかを先読みすることができる力

3年生の段階では、分析力や論理力は、そこそこ身につけているものの、俯瞰力や洞察力は身に付き始めているレベルだと思います。そこで、それらの力を定着するために必要なものが卒業論文です。

卒業論文の執筆には、上記の4つの力が必要不可欠です。卒業論文の作成に試行錯誤する経験を通じて、分析力や論理力を確かなものにし、俯瞰力と洞察力を身に付けて社会へと巣立ってほしいと願っています。

VOICE

ふるさと納税による農林水産業への影響を研究

谷口 英樹 さん
経済学部4年生
大阪府立豊中高等学校出身



「基礎ミクロ経済学」「基礎マクロ経済学」を受講して、企業や個人、政府の行動を数式で根拠づける「分析力」を身につけることができました。「計量経済学」で、現実の世界で本当に経済理論が成立しているのか、政策を実行すれば本当に効果があるのかについて、その確認方法を学んだこと、また、自主ゼミで、ゼミ仲間と教材を使って計量経済学の応用的な分析方法を学習したことも、「分析力」向上に役立ちました。自主ゼミでの学びは、3年生の研究で、どの分析方法が最適かを考える際にも活かすことができました。

「基礎演習」で正しいレポート、論文の書き方を学び、授業で何度もレポートを書くことによって「論理力」が培われました。「実践経済演習」では、問題演習や課題に取り組む中で、問題をどう解決すべきかを自分自身で考えられるようになり、論理的に考える力がついたと感じています。

3年生ゼミの研究テーマを模索する中で「俯瞰力」が身につきました。先行研究や公的機関の資料の中から調査を行った結果、最低賃金の賃金格差が人口移動に与える研究と、企業側と労働組合側が協議する最低賃金の決定過程に関する資料を結びつけて「決定過程における企業側、労働組合側の行動が最低賃金の上昇率にどう影響を与えるか?」「それが人口移動に与える影響は?」という新しいテーマを立てることができました。

ゼミでは、各チームの研究共有の際に、「何のためにその研究は必要なのか」という視点で議論したことによって、本質を見極める「洞察力」が養われました。3年生で出場した「WEST論文研究発表会」では、他校の研究発表を聞いたことも、「どのような目的で研究することが大切か」「その目的は社会にとって適切なのか」をより深く考える契機になりました。

卒業研究では、これまでに培ってきた4つの力を活かして、「ふるさと納税によって農林水産業は発展したのか」をテーマに研究する予定です。ふるさと納税の返礼品の多くが肉や魚、米であり寄附受入額が増えることによってその自治体の農業や水産業の生産額が増えたのかを分析研究したいと考えています。



経済学的視点を取り入れて子どもの教育に関する研究を行いたい

小松 真子 さん
経済学部4年生
愛知県立一宮高等学校出身

「環境経済学」「地方財政論」「医療経済論」を受講して、社会的な事象はすべて経済学と結びつけていることに気づく「俯瞰力」を得ることができました。だからこそ、「医療経済論」の講義で蒲郡市の医療体制強化の取り組みを学んだ時、以前テレビで見た志摩市の事例を関連づけて考えることができ、1つの政策が、他の地域の事例を参考に進められる場合があることを実例を通して学べたのだと実感しています。

ゼミの研究では、ひとり親家庭の子どものライフコース上の不利について検討しました。ひとり親家庭の子どもの金銭的、環境的に不利な状況下であり、低学歴・非正規雇用・低所得の悪循環に陥りがちです。データ分析の結果、その要因は、文化的資源や時間的投資の不足にあることがわかりました。金銭給付に加えて現物給付も行う政策の実行、個々の家庭状況に応じた政策の立案が必要だと結論づけられました。この研究を通して、社会現象の根本にある問題を見抜く「洞察力」が培われました。

卒業研究でも、ひとり親家庭の子どもの貧困に対応する政策の検討、子どもの教育に関して経済学的な視点を取り入れた研究を行いたいと考えています。多様な考え方や視点を学び、一人一人の生活がよくなるような政策立案を行うことが目標です。

希望の進路を切り拓く

経済学部ではキャリア教育に注力しており、学生がそれぞれの希望の進路に進むための支援を行っています。



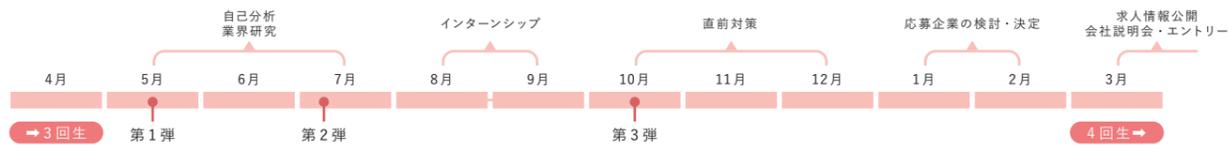
メントレ

経済学部就職活動応援企画

社会の第一線で活躍する卒業生と協力し、学生の就職活動を組織的に支援します。

「自己の価値を社会の中でどう活かすか」について考える経済学部独自のキャリア企画であり、年間を通して実施しています。とくに、秋に開催されるOBOG面接会では、経済学部同窓会の支援のもと、2日間にわたって全国から多数の卒業生を招き、自己分析の深掘り、エントリーシートの添削、面接の指導を行います。先輩だからこそできる熱血指導により、参加者は就職活動において抜群の成果をあげています。社会の第一線で活躍する卒業生と協力し、学生の就職活動を組織的に支援しています。

年間スケジュール(予定)



メントレ第1弾

学びと就職活動 編



学びと就職活動の関係性や自己分析の仕方について学びます。

メントレ第2弾

学びと自己分析 編



大学での学修という視点から、ES(エントリーシート)の書き方について学びます。

メントレ第3弾

学びと実践 編 (OBOG面接会)



多数の卒業生を招き、2日間にわたって模擬面接や、ES(エントリーシート)作成の指導を行ってまいります。

※過年度の例です。実施回数・内容は年度によって異なります。

VOICE

就活への準備だけでなく自分の考えも整理できた



舛岡 奈柚 さん
経済学部4年生
新潟県立三条高等学校出身

ゼミの先生から「ESの書き方から面接対策まで指導が受けられる」とすすめられ、メントレに参加しました。「学びと就職活動編」では、就職活動の流れが把握でき、これからどう進めればよいかをイメージすることができました。「学びと自己分析編」は、4年生の先輩がどのように自己分析をしていたかを詳しく知ることができました。一つの企業に対してノート何十ページもの企業研究をされているなど、予想よりずっと入念に準備をされていたことがわかり、事前準備の大切さを知りました。先輩の対策法を学んだことでESの書き直しや自己理解の深掘りの参考になり、自分の「軸」を見つけてることを意識するようにもなりました。

「学びと実践編」では「原稿を覚えるのではなく自然体で簡潔に答える」「伝えたい事を単語で整理しておく」というアドバイスを受け、実際の面接でもとても役に立ちました。就職活動に向けた具体的な準備・対策法を学べただけでなく、自分史をもとにOBの方から多くの深掘りをしていただいたことによって、自分はどんな働き方をしたいのか、どんな社会人になりたいのかという考えを整理することができたことがとても良かったと感じています。就職先を選んだ理由は、長く働き続けられる働きやすさです。人の挑戦や成長を支えられる人、社内外共に信頼される人になりたいと考えています。

専門キャリアプログラム

高度な専門性を求められる分野に関して、専門的キャリアの意識付けを行うために、財務・会計プログラムを設置しています。学びの集団を形成し、難関試験に挑む学生を支援します。

財務・会計プログラム

公認会計士や税理士、国税専門官、企業の財務担当職など高度な専門職を目指す人材を養成するプログラムです。簿記3級・2級の資格取得を目指す正課科目を用意しており、会計系難関資格取得へのステップアップも可能です。また、財務・会計のスペシャリストを養成する大学院経済学研究科「税理・財務コース」への進学も選択肢となります。

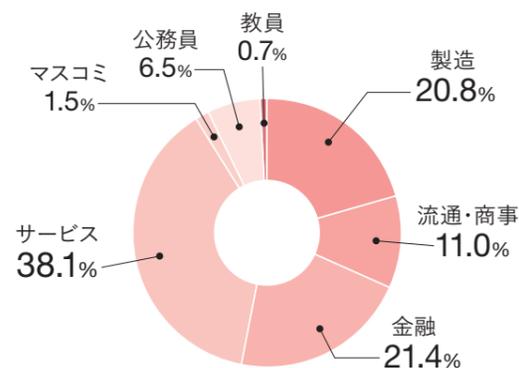
体系的な国際教育 G-ALPs

G-ALPs (Global and Active Learning Programs) はグローバルな視野を持って自らの目標(=峰)に挑戦する学生を支援する経済学部の国際教育プログラムです。正課授業では、外国語科目はもちろんのこと、経済学の専門科目についても英語や中国語で学べるカリキュラムを用意しています。さらに、経済学部独自の海外留学プログラムについても充実化をはかっています。また、正課外の取り組みとしては英語ディベートや国際的なキャリアを意識した講演会、オンラインでの国際交流等を予定しており、正課内外において学生を支援します。



就職状況

2024年度卒業生 業種別進路決定状況



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で100%にならない場合があります。

2024年度大学院進学先例

立命館大学大学院 神戸大学大学院 早稲田大学大学院
京都大学大学院 関西学院大学大学院 青山学院大学大学院
大阪大学大学院 関西大学大学院 など

2024年度公務員決定者数

国家公務員: 14名 (国税専門官、一般職(厚生労働省、農林水産省、法務省、財務省など))
地方公務員: 30名 (滋賀県、京都府、兵庫県、東京都特別区、京都市など)

2024年度公認会計士合格者数

15名(校友等含む) / 50名 (立命館大学: 校友等含む) *全国9位 西日本私大2位

2024年度卒業生 進路・就職先一例(50音順)

- | | | | |
|--------------------|------------------|--------------------|-------------------|
| アクセンチュア(株) | サントリーホールディングス(株) | 日本電気(株)(NEC) | 明治安田生命保険相互会社 |
| 味の素(株) | ソフトバンク(株) | パナソニック(株) | 山崎製パン(株) |
| 有限責任あずさ監査法人 | 大和証券グループ | 富士通(株) | ローム(株) |
| EY新日本有限責任監査法人 | 大和ハウス工業(株) | (株)ペイカレント・コンサルティング | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 |
| (株)エイチ・アイ・エス | デロイトトーマツコンサルティング | (株)みずほフィナンシャルグループ | 国家公務員一般職(財務省) |
| エーサイ(株) | 合同会社 | 三井化学(株) | 地方公務員(上級職) |
| SCSK(株) | (株)デンソー | (株)三井住友銀行 | 教員 |
| NTT西日本(西日本電信電話(株)) | 東海旅客鉄道(株) | 三井住友信託銀行(株) | |
| 京セラ(株) | トヨタ自動車(株) | 三菱電機(株) | |
| (株)京都銀行 | 日本アイ・ピー・エム(株) | (株)三菱UFJ銀行 | |